

# 英語科学習指導案

活動場所 本校舎3階 3年2組教室

生徒数 3年2組 男子17名 女子15名 計32名

指導者 T1 教諭 池本 源二郎  
T2 教諭 福永 真弓

## 1 単元名

NEW HORIZON 3 Unit5 「 Cell Phones – For or Against? 」

## 2 単元について

本単元は、一般的によく利用されている携帯電話について、その使用の賛否を議論することを題材とし、自分の意見を的確に伝えることをねらいとしている。電話の歴史についても触れており、現在の携帯電話の利便性や、使用モラルなどについて考えさせられる教材であり、生徒にとって最も関心のある話題の一つでもある。

言語材料としては、「現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法」及び「間接疑問文」を学習できるようになっている。その中で、「現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法」では、英語特有の後置修飾という文の構造にも慣れさせたい。これらの言語材料と2年次に学習したI am for(against)~のような賛成・反対を表す表現等も活用し、身近な題材について賛否やその理由を述べるができるようにしたい。

本クラスは、全体的には英語学習に対する意欲が高い生徒が多い。しかし、生徒の様子を観察してみると、授業中に自ら積極的に発表したり、クラスメートに考えや気持ちなどを伝えたりすることには苦手意識をもっている。また、生徒へのアンケートの結果から、生徒が特に苦手だと感じていることは、英文を書くことと書いたものを発表することだということが分かった。さらに、NRTの小問分析によると、「基本的な単語を正しく書くこと」については全国平均を上回っているが、「質問や依頼に適切に応じること」と「長文の大切な部分を読み取ること」においては全国平均を下回っている。

そこで、本単元を指導するに当たっては、身近な題材について、要点を的確に把握したり、自分の意見を相手に伝えようとする意欲を高めていきたい。そして、グループ学習を積極的に取り入れるなどの学習形態を工夫し、自分の意見を英語で適切に表現する練習を積み重ねることで、実践的コミュニケーション能力の育成に努めたい。

## 3 単元の学習目標

- ? 基本的な表現を用いて、身近な題材についての賛否について意欲的に自分の意見とその理由を表現しようとする。
- ? 身近な題材について、理由を含めて自分の意見を相手に伝えることができる。
- ? 身近な題材についての英文を聞いたり読んだりして、内容を理解することができる。
- ? 現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法及び間接疑問文の意味・用法を理解することができる。

## 4 単元の学習計画及び評価規準

時間	学習の流れ	評価規準
1	<b>【目標】</b> 単元の学習目標を理解し、学習の見通しをもとう。 ・本単元の目標の提示「理由を添えて自分の意見を発表しよう」 ・スキーマ形成	単元の内容に興味・関心をもたせる。 (関心・意欲・態度)
2	<b>Starting Out</b> <b>【目標】</b> 写真やお気に入りのものを紹介しよう。 ・現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法の理解と練習 ・本文の要点把握と音読練習 ・現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法を用いた表現活動	電話の歴史の概要文を理解できる。 (理解) 現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法を用いて写真や物を紹介できる。(知識・表現)

3	<p><b>Dialog</b></p> <p><b>【目標】</b>携帯電話の使用についてスキットを作成しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間接疑問文の理解</li> <li>・本文の要点把握とペアでの音読練習</li> <li>・中学生の携帯電話の使用を題材とした表現活動</li> </ul>	<p>気持ちをこめて対話をペアで音読できる。(表現)</p> <p>携帯電話の使用について対話形式のスキットを作成することができる。(表現)</p>
4 (本時)	<p><b>Reading for Communication 1</b></p> <p><b>【目標】</b>携帯電話について自分の考えを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の要点把握(「コンセプト・マップ」の作成)</li> <li>・「コンセプト・マップ」を活用した表現活動</li> <li>・携帯電話についての意見交換</li> </ul>	<p>携帯電話の使用についての英文の内容を理解し、それぞれの意見を正しく捉えることができる。(理解)</p> <p>携帯電話についての意見をすることができる。(表現)</p>
5	<p><b>Reading for Communication 2</b></p> <p><b>【目標】</b>携帯電話の使用についての意見を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の要点把握(「コンセプト・マップ」の作成)</li> <li>・「コンセプト・マップ」を活用した表現活動</li> <li>・携帯電話に関するグループ討議</li> </ul>	<p>さまざまな意見の内容を理解し、それぞれの意見を正しく捉えることができる。(理解)</p> <p>それらの意見と自分の意見と比べながら、最終的な自分の意見をまとめることができる。(表現)</p>
6	<p><b>発展的な表現活動</b></p> <p><b>【目標】</b>中学生の携帯電話の使用について自分の意見をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の携帯電話の使用を題材とした英文作成</li> <li>・生徒の作成した英作文をもとにした個人面接テスト(発表)</li> </ul>	<p>中学生の携帯電話の使用についての最終的な賛否や、その理由を含めて正しい英文で表現することができる。(表現)</p> <p>生徒の英作文の内容について教師との英語による簡単な応答をしようとする。(関心・意欲・態度)</p>
7	<p><b>単元のまとめ</b></p> <p><b>【目標】</b>Unit 5のまとめをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要文・新出語句の確認・復習</li> <li>・本文の内容の確認・復習</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<p>単元テストを通しての新出語句や重要表現を理解できる。(知識・理解)</p>

## 5 本時の実際(4 / 7)

### ? 題材名

Unit5 Cell Phones – For or Against? Reading for Communication

### ? 学習目標

- ア 携帯電話についての自分の意見とその理由を意欲的に表現しようとする。
- イ 携帯電話についての自分の意見とその理由を適切な語句を用いて表現することができる。
- ウ 携帯電話の使用についての英文の内容を理解することができる。
- エ 意見に対する賛否やその理由を表す表現を理解することができる。

### ? 授業設計の視点

- ア 聞いたり読んだりしたことを確実に理解させる指導の工夫
  - (ア) ビデオ視聴やCDを用いたリスニングによる本文の導入
 

教科書の本文については、まず初めに、本文の内容を映像化したDVDを視聴し、概要を推測させる。次にCDを用いて、本文の要点を把握するために必要なキーワードを聞き取らせる。
  - (イ) 本文の要点把握と日本語訳の提示の工夫
 

概要を把握した後、日本語による要点把握の問題(ワークシートに掲載)に取り組む。そして、要点を把握させた後、本文の内容についてワークシートで確認させる。
  - (ウ) 本文の音読への取組
 

本文の日本語訳を確認した後、音読を繰り返し行わせる。その際、「インプット・シート」を用いて、英文を後ろから読み直して日本語訳を考え直すことのないように、英語の語順や意味のまとまりを意識して音読させる。
- イ 自らの考えや気持ちなどを意欲的に発信できる表現活動の工夫
  - (ア) 学習形態の工夫
 

本時では、ペアでの音読やグループでの表現活動を設定する。特に、表現活動に関しては、自らの考えを伝え合う活動をグループで行わせる。グループを形成することで、互いに助け合いながら課題

に取り組みせたい。また、生徒同士で伝えようとする内容について考えたり、情報を整理したり、意見をまとめたりすることで、自信をもって相手に情報を伝えたり、考えや気持ちを述べたりすることができるようにした。

(1) 「コンセプト・マップ」の作成と表現活動への活用

本文の概要を把握させた後、「コンセプト・マップ」にキーワード(要点把握に必要な語句)を記入させ、本文の要点や話の流れを正確にとらえさせる。

そして、その「コンセプト・マップ」でとらえた要点を参考にして自分の考えをまとめ相手に伝えられるようにする。

? 授業の展開

過程	時間	生徒の活動	教師の活動		指導上の留意点	
			T 1	T 2		
導入	5分	1 あいさつ 2 前時の復習をする。 3 本時の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語であいさつをかわす。</li> <li>○ ピクチャーカードを見せながら内容の確認を簡単に行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 携帯電話の使い方が話題になっていることを確認する。</li> </ul>	
<p>目標：携帯電話の使用についての意見を伝えよう。</p>						
展開	42分	4 新出語句の意味の確認し、発音練習を行う。 5 本文の概要・要点を把握する。 6 本文の日本語訳を確認する。 7 音読練習に取り組む。 8 コンセプト・マップを完成させる。 9 携帯電話についての自分の意見を考えてグループで意見交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フラッシュカードで意味の確認を行う。</li> <li>○ ワークシートを配布し、DVDで概要を把握させる。 CDの音声を聞かせて本文の要点を把握させる。</li> <li>○ 日本語訳を掲載したワークシートを配布し確認させる。</li> <li>○ インプット・シートを活用してペアで練習させる。 ・ 練習の仕方を説明し、模範読みをする。</li> <li>○ グループを作らせてコンセプト・マップを完成させる。 ○ グループを分担し、机間指導を行う。 ・ 完成した「コンセプト・マップ」の点検を行う。</li> <li>○ 自分の意見を明確にし、英文を書かせる。 グループで発表会をさせる。 ・ 発表会が早く終わったグループに対しては発表の内容に対して質問をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ T 1が導入した後にフラッシュカードで発音練習を行う。</li> <li>・ 正確に音読できない生徒、またはペアに対する支援を行う。</li> <li>・ 作成困難な生徒に対する支援を行う。</li> <li>・ 意見のまとまらないグループの支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>――視点ア(ア)―― ビデオ視聴やCDを用いたりスニングによる本文の導入</li> <li>――視点ア(イ)―― 本文の要点把握と日本語訳の提示の工夫</li> <li>――視点ア(ウ)―― 本文の音読への取組</li> <li>――視点イ(ア)―― 学習形態の工夫</li> <li>――視点イ(イ)―― 「コンセプト・マップ」の作成と表現活動への活用</li> <li>ワークシートを用いさせる。 ○ グループで発表できた生徒にはポイントを与える。</li> </ul>
終末	3分	10 自己評価をし、本時の学習を振り返る。 11 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートに自己評価を記入させる。</li> <li>○ 次時の予告をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特に表現活動の取組について振り返らせることで、反省を次時の学習(表現活動)に生かす。</li> </ul>	